

平成 29 年 6 月 29 日現在

機関番号：34511

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370809

研究課題名(和文)播磨国小藩領における地域社会構造の歴史的研究

研究課題名(英文)Historical study of social structure at small feudal domain in Harima

研究代表者

今井 修平 (IMAI, Shuuhei)

神戸女子大学・文学部・教授

研究者番号：00131540

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：播磨国佐用郡平福領大庄屋、田住家と三木家の近世文書を調査、写真撮影し小藩領に固有の在地代官的役割を持つ大庄屋の性格、西播磨の領主錯綜地域への幕府広域支配の浸透、小藩陣屋町の商工業の実態について研究をすすめた。また播磨国宍粟郡山崎藩城下町の町方文書を全点写真撮影し、町政組織が確立した元禄年間(1688～1703)の町会所記録「山崎町御用書貫(上)(下)」を翻刻刊行した。播磨国神東郡福本藩領については大庄屋鵜野金兵衛家文書の近世史料目録作成を完成させ刊行した。これらの古文書を解説した成果について研究会で報告・検討し、現在論文として発表することを準備している。

研究成果の概要(英文)：This project examined the following three topics:1)the function of Ojhoya, the local officer peculiar to small feudal domain,2)the widespread controlling power of Edo bakuhu as far as the said local district or government,3)the economical and industrial functions of Jinnya-machi, serving as bases of local district.

For this purpose, members of the team shared and investigated photographed torical document of Tazumike and Mikike, both Ojyoya of Hiahuku territory in Harima. As an achievement of the project, we compiled and reissued the records of city public office, 'Yamazakichou Goyou Kakinuki' of Yamazaki Hann territory in Genroku years(1688-1703), an valuable case with its materials to show the rocess of establishing a structure of administration in small local castle city. we also made and published an inventory of Fukumoto Hann Ojyoya Unoke in early-modern era. As results of the project, We are planning to publish a paper based on these achievements.

研究分野：日本近世史

キーワード：小藩・旗本領 大庄屋制 陣屋町・小城下町 幕府広域支配 小規模領主支配 畿内非領国論 地域社会構造

1. 研究開始当初の背景

近世史研究の深化が進むなかで、近年は組合村や郡中議定など被支配者側における地域秩序維持や地域運営のシステムが注目されつつある。その一方で、幕藩領主による支配の問題として幕府の広域支配の実現形態や個別領主による在地掌握のあり方が問題とされ、所領ごとに相違する徴租法や支配機構、中間層の在り方など地域差に留意しつつ時代とともに変貌する地域社会像を解明することが求められている。

また近世の播磨国は摂津、河内、和泉と並んで大坂町奉行の広域支配下に置かれた非領国でありながら非領国論として論じられることが少なかった。近年は『姫路市史』『加古川市史』『福崎町史』『小野市史』『高砂市史』『赤穂市史』『龍野市史』『相生市史』『太子町史』『揖保川町史』など優れた自治体史が編さんされているにも関わらず播磨国を非領国地域として位置づけた研究は見られない。摂津国に隣接して所領の錯綜性や商品経済の発達度の点で摂河泉との類似性の高い東播磨や中規模大名領として領国的の性格の強い姫路藩領を除いて、小規模な小藩・旗本領が地域的纏まりを持って領域支配を実現している奥播磨、西播磨については基本的な近世文書の調査すら未だ行われているとは言えない状況にある。そこで領主による在地支配のあり方、幕府の広域支配の及び方、在地住民側の地域運営システムを含めた地域社会構造の解明を進める対象地域として播磨国を取り上げる。

2. 研究の目的

本研究はこのような課題の解明のために、播磨国内の、とりわけ奥播磨・西播磨に位置する複数の外様小藩・旗本領の地域社会構造を分析しようとするものである。それら地域を対象に、領主支配の側面、幕府の広域支配の側面、領民主導による地域運営

の側面、中間支配機構としての大庄屋制の特色、小城下町・陣屋町の都市機能の側面から解明しようとするものである。具体的には神東郡福本藩池田家領、宍粟郡山崎藩本多家領、佐用郡平福(松井松平家)領、佐用郡三日月藩森家領の、大庄屋文書、庄屋文書、藩政文書、小城下町・陣屋町の町方文書と鳥取県立博物館、岡山大学、国立公文書館等に所蔵される大名家文書を調査、写真収集し、解読をすすめ、地方文書については古文書目録を作成し、また重要性の高い文書については翻刻史料集を印刷・刊行するとともに、その情報をデジタル化して共有し、研究代表者、研究分担者ごとに個別のテーマをもって研究を進め、領主支配・地域経済・広域行政を相互に関連させつつ近世播磨国における地域社会構造の歴史的な特質を解明する。それは近世地域社会論の深化と同時に播磨国の地域的特性の解明と、畿内非領国論の見直しにもつながるものである。

3. 研究の方法

(1) 神東郡福本藩池田家領の大庄屋、鵜野金兵衛家文書の目録作成を完成させ、デジタル化した文書の解読を進める。また領主池田家の文書も調査し、小規模領主の在地支配の特質、鵜野金兵衛家の豪農・豪商としての経済活動の分析、藩財政運営における役割と、領域社会を越えた経済活動(酒造業・金融業)を解明する。

(2) 宍粟郡山崎藩池田家・松平家・本多家領の城下町、山崎の町方文書を調査、写真撮影を進めるとともに重要史料を翻刻・刊行する。その解読・分析により小藩領域下町の成立、構造、発展の過程と町政組織、領域経済における経済機能を解明する。

- (3) 佐用郡平福松井松平家領大庄屋、田住家と新出の三木家の文書、これはいづれも兵庫県立歴史博物館に寄託されているが、博物館の協力を得て調査、写真撮影を進めるとともに、領主の松井松平家文書を調査し、交替寄合席旗本領の在地支配を委ねられた大庄屋機能と、陣屋町平福の商工業機能と町政機構を解明する。
- (4) 上記の大庄屋文書、町方文書の調査を通じて幕府の広域行政と地域社会の関わりを検討し播磨国小藩・旗本領における幕府の国家的公的支配の関係性を解明する。
- (5) その他の西播磨地域の小藩・旗本領として三日月藩森家、安志藩小笠原家、新宮藩池田家にも調査を進める。

4. 研究成果

福本領については『播州福本領鷓野金兵衛家文書目録』を刊行し、近世文書全点の目録化を完成した。また近世後期の大庄屋が藩札発行を含めて藩の財政運用や藩士の知行地支配にも関わっていたことが解明されたが、藩政史料そのものが残されておらず、領域に地域社会構造の解明にはいたらなかった。ただし分家の屋形池田家三千石と吉富池田家千石と福本池田家七千石は領域としては一万石の藩領時代と同様の地域的纏まりを維持しているものの、領主支配に関して屋形池田家は屋形に陣屋を置き、独自性をもっており、吉富池田家は福本池田家と一体の支配を行って大庄屋の鷓野家が吉富池田家の領主支配にも関わっていたことも判明した。

宍粟郡山崎藩領については、宍粟市教育委員会の協力を得て、山崎町方文書全点の写真撮影を行い、山崎の町政機構が整備され町会所が設立された時期を含む元禄元年(1688)から元禄一六年(1703)の町政記録『元禄年間山崎町御用書貫

上・下』を翻刻・刊行した。これは地方小城下町の町政組織の形成過程を解明するという意味で近世都市史研究にも裨益するところが大きい。

また町政運営の実態や都市住民の生活、領内農村と城下町の間を含めて、小藩領の地域社会構造の解明にも資するところが大きい。

佐用郡平福領については兵庫県立博物館において大庄屋田住家文書のうち研究代表者・研究分担者のテーマに応じて選んだ文書を写真撮影し、各自で解読・分析を進めた。また新発見の遠入氏寄託三木家文書は従来から知られていた田住家文書の空白期間を埋める内容の大庄屋文書であることが判明した。三木家文書については近世文書を全点写真撮影した。その解読を進めた結果、平福領においては大庄屋が在地代官としての役割を持っていたことが判明した。これも西播磨に固有の大庄屋の性格の解明につながると同時に在地代官制度についても新たな知見につながる事例の発見であった。これらの内容は近日中に論文として発表することを予定している。

さらに調査の過程で佐用郡三日月藩森家(1万5千石)の陣屋町、乃井野に現存する中下級士族の武家屋敷5軒のうち、竹内家と小林家に古文書が残されていることを発見し、予備調査をおこなった。

在地している領主家中の武家文書そのものが希少であり、その内容から小藩領の地域社会における領主家臣団の位置付けを解明する新たな課題の発見でもあった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計11件)

村田路人「史料 触留帳・触写帳と万留帳」撰津市総務部市史編さん室編『新修撰津市史 史料と研究』第二号、1-184頁、2016年、査読無

鎌谷かおる・佐野雅規・中塚 武「日本近世における年貢上納と気候変動 - 近世史研究における古気候データ活用の可能性をさぐる - 」、『日本史研究』646号、36-56頁、2016年、査読有

志村洋「大庄屋と組合村」(藤井讓治他編『岩波講座日本歴史 14巻』岩波書店、73-106頁、2015年、査読有

村田路人「書評 熊谷光子著『畿内・近国の旗本知行と在地代官』」、『歴史科学』222号、24-32頁、2015年、査読有

志村洋「近世後期の小藩・交代寄合領の大庄屋 - 播磨国福本池田氏領を中心に - 」、『関西学院史学』41号、29-64頁、2014年、査読有

東谷智「旧福本藩主池田徳潤の海外渡航について - 池田徳潤書状を中心に - 」、『甲南大学紀要』文学編 164号、2014年、査読有、27-30頁

村田路人「吉宗の政治」大津透・桜井英治・藤井讓治・吉田裕・李成市編『岩波講座日本歴史第12巻近世3』岩波書店、1-34頁、2014年、査読有

今井修平「在郷町伊丹郷研究の成果と課題」、『ヒストリア』246号、2-11頁、2014年、査読有

今井修平「池田恒興(信輝)と兵庫城」、『神戸史談』311号、36-40頁、2014年、査読無

6. 研究組織

(1) 研究代表者

今井 修平 (IMAI, Shuuhei)
神戸女子大学・文学部・教授
研究者番号：00131540

(2) 研究分担者

村田 路人 (MURATA, Michihito)
大阪大学大学院・文学研究科・教授
研究者番号：40144414

志村 洋 (SHIMURA, Hiroshi)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：90272434

東谷 智 (HIGASHITANI, Satoshi)
甲南大学・文学部・教授
研究者番号：10434911

鎌谷 かおる (KAMATANI, Kaoru)
総合地球環境学研究所・研究部・プロジェクト研究員
研究者番号：20532899